

# 指導資料

 鹿児島県総合教育センター

## 総合的な学習の時間 第11号

- 小学校, 盲・聾・養護学校対象 -

平成17年5月発行

### 小学校英語活動の効果的な進め方 児童の発達段階や興味・関心を生かした指導の工夫

小学校では、平成14年度から新設された「総合的な学習の時間」を活用し、国際理解教育の一環として外国語会話等を行うことができるようになった。本県でも約560の小学校が、「総合的な学習の時間」等において英語活動に取り組んでいる(平成15年度実績)。これらの取組の結果、児童がALT(外国語指導助手)やHRT(学級担任)などとのコミュニケーション活動等を通して、英語やコミュニケーションの楽しさを体験したり、積極性、自発性、主体性を身に付けたりしているなどの成果が報告されている。

しかし、各学校は指導方法や活動内容の工夫を図りながら英語活動を行っているものの、総合的な学習の時間でどのような力を身に付けさせたいのかという目標と英語活動の目標や内容との関連が十分には図られていないため、効果的な学習活動になっていない現状がみられる。

そこで、本稿では英語活動を効果的に進めるために、総合的な学習の時間のねらいに沿い、また、児童の発達段階や興味・関心を生かした英語活動の工夫について述べる。

「総合的な学習の時間」のねらいは、学習を通して、自ら学び、自ら考えるなどの問題を解決する力を育てたり、問題解決へ向けての主体的、創造的な態度を育成したりすることなどである。英語活動においても同様に、言語の習得を主な目的とするのではなく、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむための学習活動としてとらえることが大切である。

そこで、各学校においては、総合的な学習の時間の目標や身に付けさせたい力との関連を図りつつ、英語活動の目標を明確に設定することが重要である(表1)。

表1 【A小学校における中・高学年部の目標例】

中学年	高学年
英語に興味・関心をもち、楽しんで英語活動に参加しようとする。【考える力】 自分の思いをもち、英語表現や身振りを使って恥ずかしがらずに相手に伝えようとする。【表現する力】 英語表現や身振りから、相手の思いを分かろうとする。【人とかがわる力】	英語や英語を使ったコミュニケーションへの興味・関心を高め、自分の課題を解決するため、楽しみながら進んで活動に参加しようとする。【考える力】 自分の思いをもち、英語表現や身振りを使って相手が分かるように伝えようとする。【表現する力】
(注) ( )内は、A小学校において総合的な学習の時間に身に付けさせたい力(視点【目標】)	英語表現や身振りから、相手の思いを分かろうとし、その思いに応じようとする。【人とかがわる力】

1 総合的な学習の時間のねらいと英語活動の目標との関連

2 児童の発達段階を考慮した英語活動

学年部ごとの発達段階の特性は、およそ次の表2のようにまとめることができる。

表2 【発達段階の特性】

低学年	中学年	高学年
身体表現を好む。 五感が鋭敏である。 単純な繰り返しの練習を苦にしない。	好奇心(例:文化の相違)が旺盛である。 集団での活動を好む。 学習経験そのものを楽しんで満足する。	分析的・論理的に考えながら学習しようとする。 理解できないと不安になる。 単純な繰り返しの練習に飽きる。

これらの発達段階の特性から、中学年においては旺盛な好奇心を満たすような体験的な英語活動を仕組んだり、高学年においては挑戦しがいのある題材を設定したりすることが大切であることが分かる。このように、発達段階の特性は、活動内容や指導方法、自己評価などにおいても、工夫する際の参考となり得る(視点【発達段階の特性】)。

### 3 児童の興味・関心を生かした英語活動

英語活動に対する児童の興味・関心は、一人一人異なる。そこで、児童の興味・関心を的確に把握し、活動内容や指導方法の工夫に生かしていくことが大切である。

次の表3は、英語活動で扱う内容を決める際のポイントである。

表3 【内容を決める際のポイント】

ア 音声を中心として扱う。
イ 児童の「言いたいこと」、「したいこと」を重視する。
ウ 児童の日常生活に身近な事柄を扱う。
エ 基本的で、応用の利く表現を選ぶ。
オ 既知のものでも新たな発見をもたらす話題等を扱う。
カ 外国人の表現や身振りから、文化の違いに気付かせる。

このうち、児童の思い(イ)や児童にとって身近な事柄(ウ)は、日ごろの児童の態度や意識調査を基に、題材の選定や活動内

容の決定、さらには指導方法の工夫を行う上で大切である(表4~6参照)。

表4 【意識調査の質問項目例】

英語の時間はどんなときに「楽しい」、又は「楽しくない」ですか。(学習スタイルの好み)
英語が分からなくて困ったときがありますか。それはどのようなときですか。(言語材料に対する心理的距離感)
英語の時間、他の人と話そうとしていますか。それはなぜですか。(コミュニケーション活動への意欲)
英語の時間、どんなテーマに取り組みたいですか。(興味のある活動)

表5【児童が取り組みたい題材(第6学年)の例】

ア言われたとおりに動こう
イパーティをしよう
ウ学校の勉強

↓(視点【児童の興味・関心】)  
単元開発

表6【積極的に話さない理由】

ア どう言えばよいか分からない
イ 上手に言えない
ウ 恥ずかしい
エ 英語が得意でない

↓(視点【児童の興味・関心】)  
活動内容・指導方法の工夫

### 4 英語活動の内容に関する留意点

総合的な学習の時間における学習活動の展開と同様、英語活動の内容についても、活動内容を出会いの段階 認識の段階 実践の段階へと深めていくことが大切である。この活動の段階設定は、次の表7のように1単位時間の授業や1単元の授業計画の中で考えたいことである(視点【内容の深まり】)。

表7【英語にかかわる活動・体験の分類】

活動・体験の種類	活動・体験の内容	その意義
英語の音、リズム等に親しむ学習活動	歌・チャンツ TPR (Total Physical Response: 全身反応教授法) ビデオ視聴	慣れる
英語の単語や表現に習熟する活動	ゲーム(バスケット、ピョンゴなど)	↓
英語の機能・英語使用場面に重点を置いた学習活動	買い物ごっこ、レストランで、道案内、電話で話す	実際に使ってみる
英語で体験する活動	料理を作る、スポーツする(運動会)、町めぐり 学校・学級行事(学級会、誕生会、交流会、お別れ会)	↓
創作・自己表現活動	スキット作り、劇、Show and Tell、カード作り、ビデオレター制作	考えて新しいものをつくる

また、活動内容を組み合わせる際の基本的な考え方として、次のことを念頭に置くことが大切である（表8）。

表8 【活動内容の組み合わせの基本】

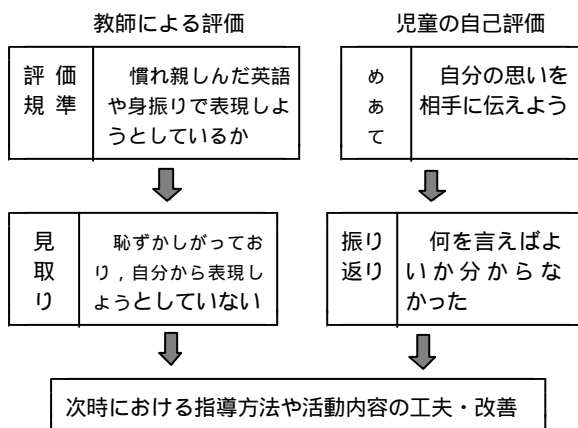
出会った表現をたづね聞きかせる。耳になじんだら十分に繰り返し発話させる。場に応じた表現を選んで使わせる。  
 同じ表現を用いた異なる活動をいくつか組み合わせる。  
 ウォーム・アップ 活動 振り返りといったように意識の流れをうまく作ったり、単調にならないよう動と静をうまく組み合わせたりする。  
 異文化理解やグローバルな視点を取り入れ、交流活動、調べ学習などの活動と関連させる。

## 5 指導と評価の一体化

指導を改善するための視点として、教師による行動観察評価や児童の自己評価を次時の指導に生かすことが挙げられる。

英語活動においても、計画(Plan)、実践(Do)、評価(Check)、改善(Action)という一連の活動が繰り返されながら、児童のよりよい成長を目指した指導を展開する必要がある(視点 【指導と評価の一体化】)。

具体的活動における児童の活動状況については、教師による評価規準に照らした評価と児童による自己評価の結果を、次時に生かす工夫をすることが大切である。



## 6 指導の工夫の実践例

ここでは、上述の英語活動を効果的に進めるためのポイントを取り入れた実践例を紹介する。この例は、児童の英語活動に対する意識調査の結果から題材に対する興味・関心を把握し、単元の目標を基に、単元構想や活動内容に生かしたものである。

(1) 単元名 学校ウォークラリーをしよう  
(第6学年、5時間)

(2) 単元の目標

簡単な英語表現や身振りをを使って、自分の思いを相手に分かりやすく伝えようすることができる。(表現する力)  
 相手の英語表現や身振りを分かろうと努め、相手の思いに応じようすることができる。(人とかがわる力)  
 「英語を使って、学校ウォークラリーをしたい」という意欲をもち、見通しをもって楽しみながら活動に参加することができる。(考える力)

(3) 単元の指導計画

時	過程	主な学習活動(〔 〕は活動名、～ は視点)
1	意欲をもつ	〔オリエンテーション, 言われたとおりに動こう〕 ・ねらいについて話し合い、単元の活動への見通しをもつ。 ・「動きを指示する表現」を使ってゲームをする。
↓ 次時の指導に自己評価・授業評価アンケートを生かす。		
2	追究する	〔言われたとおりに動こう〕 ・「動きを指示する表現」を使ってゲームをする。
↓ 次時の指導に自己評価・授業評価アンケートを生かす。		
3	追究する	〔教室の名前を調べよう〕 ・「動きを指示する表現」、「(児童が言いたいと思った)教室の名前」を使ってゲームをする。
↓ 次時の指導に自己評価・授業評価アンケートを生かす。		
4	追究する	〔保健室はどこですか〕 ・「動きを指示する表現」、「教室の名前」、「はどこですか」の表現を使ってゲームをする。
↓ 次時の指導に自己評価・授業評価アンケートを生かす。		
5	チャレンジする	〔学校ウォークラリーをしよう〕 ・「動きを指示する表現」、「教室の名前」を使って学校ウォークラリーをする。 ・単元全体を振り返る。

【視点】：目標 ； 発達段階の特性 ； 児童の興味・関心  
 ； 内容の深まり ； 指導と評価の一体化】

(4) 指導の工夫の実践

指導に当たって、教師による行動観察と児童による振り返りを基に、児童の興

味・関心を生かしながら，次時の活動内容  
や指導方法の工夫をしている(視点・・・)。

表9 【児童の興味・関心を生かした指導の工夫例(第6学年)】

ア 「始めのあいさつが楽しくない」と感じている場合	
工夫：気分に応じたあいさつを選ばせる	児童の気持ちに応じたあいさつを個別に尋ねる。 (表現例：'I'm happy.' 'So-so.' 'I have a cold.') あいさつ絵カードの下に番号を書き，表現を忘れても番号で答えられるようにする。 指名の順番を考慮し，最初は，英語を使って発表することに抵抗の少ない児童を指名する。
イ 「モデルスキットの意味が分からない」と感じている場合	
工夫：子どもの判断に迷いが生じない場を設定する	本物感のある場を設定し，おもしろい小道具を用いる。 同じ表現を繰り返す。 区切ったり，ゆっくりと抑揚豊かに言ったりする。 モデルスキットを提示した後に，ルールやキーワードなどを日本語で確認する。
ウ 「英語は難しいから楽しくない」と感じている場合	
工夫：言語材料の量を減らす	1単位時間に導入する言語材料の量の目安を設定する (聞き慣れない表現は4語句，聞いたことのある表現は7語句，両者が交ざった表現は6語句程度)。
エ 「チャッツが楽しくない」と感じている場合	
工夫：飽きさせないように，毎回，実施方法に変化をもたせる	毎時，実施方法を変える(絵カードに合わせて/体を動かしながら/声の調子を変えて(ささやき声，叫び声など)/1回に言う量を変えて/リズムを変えて/合わせる楽器の音を変えて/フラッシュカードを用いて)。
オ 「英語が覚えられないから話せない」と感じている場合	
工夫：記憶を助けるゲームを行う	既習表現の復習や言語材料の多い時の導入時に，音声に楽しく親しめるよう，ルールの簡単なゲームを行う。 (例：旗揚げゲームやジャンケンゲーム)
カ 「英語を言うことが恥ずかしい」と感じている場合	
工夫：ダイナミックな動きのあるゲームを行う	広い場所を移動する/走るなど，全身を動かしたり，個人が間違った動きをしても全体の中では目立たなかったりするゲームを行う(例：風船ゲームや迷路ゲーム)。 ゲームに集中させ，言語活動自体をあまり意識させないようにする。
キ 「英語でもっと話したい/話したくない」と思っている場合	
工夫：コミュニケーションの必要性のあるゲームを行う	自分の思いを表現したり，相手の思いに応じたりすることで獲得点数が異なったり，コミュニケーションの楽しさを味わったりすることのできるゲームを行う(例：ロボットコントロールゲーム，学校ウォークラリー)。
ク 「振り返り活動が楽しくない」と感じている場合	
工夫：自分の成長を実感させる評価カードを活用させる	めあてに基づいた自己評価や相互評価を行う(カード活用)。 静かに内省したい児童に配慮し，不必要な声掛けはしない。指導者からのフィードバックは，評価カードのコメント欄への記入や別な機会の声掛けとする。

ケ 「指示の意味が分からない」と感じている場合

工夫：クラスルームイングリッシュを工夫する
毎回，同じ英語表現を使い，身振りや絵カードなどを交える。(例：Raise your hand.(手を挙げて)/Put your hand down.(手を下げて)/Put it away.(片付けて)/Make a group.(グループを作って)/Close.(おしい)/That's right.(正解)/Here you are.(はい，どうぞ)

コ 「ペア活動の時，うまく活動できない」と感じている場合

工夫：全体指導，個別指導を充実する
様々な形態(友達と/A L Tと/担任と/一斉に/グループで/ペアでなど)を組み合わせる。 場合によっては，友人関係等を考慮したペアを組み合わせる。

サ 「A L Tとの活動が楽しみである」と感じている場合

工夫：A L Tがその児童に直接話し掛ける
A L Tがゲーム等において必ずかわり，話し掛けるようにする。 活動時，ローマ字で記名した名札を子どもに付けさせる。

シ 「A L Tに英語で言いたいことを尋ねたい」と思っている場合

工夫：A L Tに尋ねるための表現を示す
H R Tが尋ね方の手本を示し，児童に促す(例：肩をすくめながら“What?”と言う)。

(実践例は，菱刈町立本城小学校 桑原淳子教諭の実践を基に作成)

このような指導の工夫を行うことにより，児童は英語活動を「楽しい」と感じ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が高まったと報告されている。

各学校では，総合的な学習の時間における英語活動を通して，児童一人一人にどのような資質や能力を育成するのかといった意義やねらいを明確にすることが必要である。そのために，児童一人一人の実態を的確にとらえた上で，生きる力をはぐくむための英語活動を展開していくことが求められている。

【引用・参考文献】

- 鹿児島県教育委員会『英語大好き「かごしまっ子」育成プラン 平成16年3月  
文部科学省『小学校英語活動実践の手引き』2001年4月 開隆堂出版  
渡邊寛治研究代表『小学校の「総合的な学習の時間」における英会話学習の実態調査』報告書 2003年3月  
松川禮子著『小学校英語活動を創る』 2003年7月 高陵社  
影浦攻著『小学校英語活動指導のアイテム小事典』 2002年1月 明治図書  
(教科教育研修課)